

迎えて



立科町長
小宮山 和幸



明けましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい新春を、ご家族お揃いで健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。

日頃は町政へのご支援ご協力を賜り心より感謝を申し上げます。

昨年は、暮れに衆議院の解散に伴う総選挙が行われ、あわただしい年末でありました。

新政権には、長引く不況に喘ぐ国民の為に、経済立直し・雇用確保の政策を最優先とし、国民の生活を守って欲しいと願うものです。

当町から初めての国会議員が誕生し、大変喜ばしくお祝い申し上げます。寺島義幸様には、国と地方の為に大いなる活躍をご期待申し上げます。

さて、昨年の立科町はお蔭様で平穩無事に送る事ができました。大きな災害もなく、農産物も豊作となり、災害の少ない町に感謝であります。町の抱える課題は山積であります。

特に、人口増に向けた取り組みが喫緊の課題であり、新年度では、人口増を目指す事業を予算に反映させて行く考えであります。

来年度の財政運営は、引き続き厳しい状況の中にあり、歳出に於いて社会保障関係経費や公共施設の維持管理経費などが増加し、依然として、経常的経費の占める割合が高い構造と予想されます。

予算編成では、徹底した事業評価を踏まえ、良質な住民サービスの持続、重点項目の着実な実施に配慮し、町民皆様の期待に応えて参りたいと考えております。予算編成の重点項目には、「立科の子育て支援」「立科の環境」「立科の産業振興支援」「立科の高齢者福祉」の五点を掲げ、人口増を念頭に置いた施策の展開をして参ります。

先ず、子育て支援では、保育所や児童館の相談事業の充実、運営時間の拡大により仕事と子育ての「両立支援」を進め、負担軽減を図って参ります。

子育て支援住宅は人気も高く、住宅団地分譲の要望も有り、更に住環境整備の充実にも努めて参ります。

立科教育では、すべての子ども達に「生きる力」を培う事を目標としており、あらゆる関係者の支援・協力の下に、保育園・小学校・中学校・蓼科高校が連携しながら学力向上を目指す「学校連携事業」、保育に教育を加えた「幼児教育」を推進すると共に、蓼科高校が、少子化による新たな時代に向けて発展の一助となる様、「通学車両運行に係る事業」を進めて参ります。

尚、たてしな保育園は今年四月の開所に向け工事が順調に進んでおります。環境においては、その維持に山林や農地などの保全が重要であります。特に、蓼科の水は町の重要な資源であり、有効に活用し、町民益となる施策を推進して

参ります。

産業振興では、農村と都市との「地域間交流」の構築や、白樺高原エリアと農村・商業エリアとの「地区間連携」、更には、官民連携の「分野間連携」による、産業の創造と雇用の拡大を目指して参ります。

高齢者福祉では、超高齢化時代に入り、核家族化が進み、一人暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯が増えており、町の高齢化率は三十%を超え、今後更に上昇すると予想されます。高齢者の最大の不安要因である、介護サービスの充実が急務であります。一層の施設介護が求められる事から「徳花苑」を増床移転し、その後、地域密着型介護福祉施設として、機能強化を図って参りたいと考えております。

尚、社会福祉施設の今後のあり方として、自治体の役割も大きく変わり、真に必要なサービスを提供する環境を整える必要があります。「徳花苑」は今年四月から社会福祉法人となります。

本年は、これら五つの課題の充実を掲げ、安心して暮らせる町の実現に向けて邁進して参る所存でございます。

皆様の変らぬご支援ご協力を賜ります様お願い申し上げます。依然、混沌の時代ではありますが、皆様のご健勝とご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。